

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	Format
<input type="checkbox"/> Clear Selections	Display Selected
<input type="checkbox"/> Print/Save Selected	Free
<input type="checkbox"/> Send Results	

1. 1/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2005 Thomson Derwent. All rts. reserv.

008858499

WPI Acc No: 1991-362522/199150

XRAM Acc No: C91-156218

Agent for oxidative dyeing of hair - obtd. by mixing
emulsion contg. dye and emulsion contg. oxidising agent, and thickening
with higher fatty alcohol(s)

Patent Assignee: WELLA AG (WELA)

Inventor: AEBY J; MAGER H; PASQUIER G

Number of Countries: 016 Number of Patents: 011

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
DE 4017718	A	19911205	DE 4017718	A	19900601	199150 B
WO 9118582	A	19911212				199201
EP 485539	A1	19920520	EP 91907467	A	19910405	199221
			WO 91EP648	A	19910405	
BR 9105772	A	19920818	BR 915772	A	19910405	199238
			WO 91EP648	A	19910405	
JP 5500228	W	19930121	JP 91506846	A	19910405	199308
			WO 91EP648	A	19910405	
ES 2042466	T1	19931216	EP 91907467	A	19910405	199403
JP 94062396	B2	19940817	JP 91506846	A	19910405	199431
			WO 91EP648	A	19910405	
EP 485539	B1	19951011	EP 91907467	A	19910405	199545
			WO 91EP648	A	19910405	
DE 59106672	G	19951116	DE 506672	A	19910405	199551
			EP 91907467	A	19910405	
			WO 91EP648	A	19910405	
ES 2042466	T3	19960216	EP 91907467	A	19910405	199614
EP 485539	B2	19980624	EP 91907467	A	19910405	199829
			WO 91EP648	A	19910405	

Priority Applications (No Type Date): DE 4017718 A 19900601; WO 91EP648 A 19910405

Cited Patents: 1. Jnl. Ref; EP 216334; EP 258586; JP 1279819

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

DE 4017718 A 8

WO 9118582 A

Designated States (National): BR JP US

Designated States (Regional): AT BE CH DE DK ES FR GB GR IT LU NL SE

EP 485539 A1 G 29 A61K-007/13 Based on patent WO 9118582

Designated States (Regional): DE ES FR GB IT

BR 9105772 A A61K-007/13 Based on patent WO 9118582

JP 5500228 W 6 A61K-007/13 Based on patent WO 9118582

ES 2042466 T1 A61K-007/13 Based on patent EP 485539

JP 94062396 B2 8 A61K-007/13 Based on patent JP 5500228

Based on patent WO 9118582

EP 485539 B1 G 10 A61K-007/13 Based on patent WO 9118582

Designated States (Regional): DE ES FR GB IT

DE 59106672 G A61K-007/13 Based on patent EP 485539

Based on patent WO 9118582

ES 2042466 T3 A61K-007/13 Based on patent EP 485539

EP 485539 B2 G A61K-007/13 Based on patent WO 9118582

Designated States (Regional): DE ES FR GB IT

Abstract (Basic): DE 4017718 A

In an agent for oxidative dyeing of hair, obtd. by mixing (A) an emulsion component contg. dye and 6-30 wt. % of a thickener mixt., with (B) an emulsion component contg. an oxidn. agent and 3-12 wt. % of a thickener mixt., the thickener in (A) contains 60-100 wt. %, w. r. t. total thickener, of 10-24C fatty alcohols, the thickener in (B) contains 75-100% w. r. t. total thickener, of 10-24C fatty alcohols, and the ratio of (A):(B) is 1:1.7-3.

Components (A) and (B) are mixed in ratio 1:1.7-3 just before use, and the required amt. of the mixt. is allowed to act on the hair for 10-45 mins. at 15-50 deg C, followed by rinsing with water and drying.

ADVANTAGE - Components (A) and (B) have similar consistencies and are easily mixed together, and are easily removed from the packaging, esp. a tube. The dye compsn. has higher viscosity than usual oxidn. dye compsns., making appln., e.g. with a brush, easy. (8pp)

Title Terms: AGENT; OXIDATION; DYE; HAIR; OBTAIN; MIX; EMULSION; CONTAIN; DYE; EMULSION; CONTAIN; OXIDATION; AGENT; THICKEN; HIGH; FATTY; ALCOHOL

Derwent Class: D21; E19; E24

International Patent Class (Main): A61K-007/13

International Patent Class (Additional): D06P-003/08

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2005 Thomson Derwent. All rights reserved.

Select All
 Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected

Format
Free

© 2005 Dialog, a Thomson business

資料 6

(19) 日本国特許庁 (JP)

特許公報 (B2)

(11) 特許出願公告番号

特公平6-62396

(24) (44) 公告日 平成6年(1994)8月17日

(51) Int. Cl.

A61K 7/13

識別記号

8615-4C

F.I.

(B) 20202380217



請求項の数11 (全8頁)

(21) 出願番号	特願平3-506846	(71) 出願人	999999999 ウエラ アクチエンゲゼルシャフト ドイツ連邦共和国、デ—6100 ダルムシ ュタット、ベルリーネル アレー 65
(86) (22) 出願日	平成3年(1991)4月5日	(72) 発明者	マーガー、ヘルベルト スイス国、ツェーハー-1723 マリー、 ルート デュ ロウレ 21
(86) 国際出願番号	PCT/EP91/00648	(72) 発明者	エービー、ヨーハン スイス国、ツェーハー-1723 マリー、 ルート デ ブラレッテ 18
(87) 国際公開番号	WO91/18582	(72) 発明者	バスキール、ジルペール スイス国、ツェーハー-1724 ブラロマン 、レ リュシル (番地なし)
(87) 国際公開日	平成3年(1991)12月12日	(74) 代理人	弁理士 新実 健郎 (外1名)
(65) 公表番号	特表平5-500228		
(43) 公表日	平成5年(1993)1月21日		
(31) 優先権主張番号	P 4 0 1 7 7 1 8. 1		
(32) 優先日	1990年6月1日		
(33) 優先権主張国	ドイツ (DE)		

(54) 【発明の名称】エマルジョン状の染料担体およびエマルジョン状の酸化剤含有組成物から成る酸化染毛剤

【特許請求の範囲】

【請求項1】 増粘剤混合物を6ないし30重量パーセント含有するエマルジョン状の成分(A) (染料担体) と、増粘剤混合物3ないし12重量パーセントと酸化剤を含有するエマルジョン状の成分(B) を、混合することによって得られるものであつて、

a) 成分(A) 中に含有されている増粘剤混合物が、この増粘剤混合物の全重量に関して、C₁—ないしC₂—の脂肪族アルコールを60ないし100重量パーセント含有すること、

b) 成分(B) 中に含有されている増粘剤混合物が、この増粘剤混合物の全重量に関して、C₁—ないしC₂—の脂肪族アルコールを75ないし100重量パーセント含有すること、および

c) 成分(A) と成分(B) の混合割合が1:1, 7な

いし1:3であることを

特徴とする毛髪の酸化染色用薬剤。

【請求項2】 成分(A) と成分(B) の重量割合が1:2であることを特徴とする、請求項1に記載の薬剤。

【請求項3】 成分(A) および成分(B) に含有される脂肪族アルコールがC₁—ないしC₂—の脂肪族アルコールであることを特徴とする、請求項1あるいは2に記載の薬剤。

【請求項4】 成分(A) 中に含有されている増粘剤混合物が、エマルジョン状の化粧品において一般に使用されている増粘作用を有する物質を、この増粘剤混合物の全重量に関して40重量パーセント以下の量において、含有することを特徴とする、請求項1ないし3いずれか1項に記載の薬剤。

【請求項5】 成分(A) 中に含有されている増粘剤混合

(2)

特公平6-62396

3

物が、 C_{11} ないし C_{12} の脂肪酸とグリセリンあるいはグリコールのエステルを含有することを特徴とする、請求項1ないし4いずれか1項に記載の薬剤。

【請求項6】成分(A)中に含有されている増粘剤混合物が、非イオン系あるいはアニオン系乳化剤あるいはこれらの混合物を、この増粘剤混合物の全重量に関して0.2ないし2.5重量パーセント含有することを特徴とする、請求項1ないし5いずれか1項に記載の薬剤。

【請求項7】成分(A)が顔色物質・カップリング物質複合物を0.01ないし1.2重量パーセント含有することを特徴とする、請求項1ないし6いずれか1項に記載の薬剤。

【請求項8】成分(A)が直接染料および自己カップリング可能な染料前駆体を0.01ないし6重量パーセント含有することを特徴とする、請求項1ないし7いずれか1項に記載の薬剤。

【請求項9】成分(B)が酸化剤を1ないし1.8重量パーセント含有することを特徴とする、請求項1ないし8いずれか1項に記載の薬剤。

【請求項10】酸化剤が過酸化水素であることを特徴とする、請求項9に記載の薬剤。

【請求項11】成分(B)中に含有されている増粘剤混合物が、アニオン系あるいは非イオン系乳化剤あるいはこれらの混合物を、この増粘剤混合物の全重量に関して0.2ないし2.5重量パーセント含有することを特徴とする、請求項1ないし10いずれか1項に記載の薬剤。

【発明の詳細な説明】

本発明は、 C_{11} ないし C_{12} の脂肪族アルコールを60ないし100重量パーセント含有する増粘剤混合物を含むエマルジョン状染料担体と、 C_{11} ないし C_{12} の脂肪族アルコールを7.5重量パーセント以上含有する増粘剤混合物と酸化剤を含むエマルジョン状組成物を、1:1.7ないし1:3の割合で混合することによって得られる毛髪の酸化染色用薬剤、並びに毛髪の酸化染色法に関する。

毛髪の染色において酸化染毛剤は非常に重要な位置を占めている。この場合染色は、毛髪内部において特定の顔色物質と特定のカップリング物質を適当な酸化剤の存在下に反応させることによって、行われる。

顔色物質として、特に2-ジアミノトルエン、4-アミノフェノールおよび1-4-ジアミノベンゼンが使用されているが、その他に2-5-ジアミノアニソール、2-5-ジアミノベンジルアルコール、2-(2'-ヒドロキシエチル)-1-4-ジアミノベンゼンおよび4-アミノ-N-(2'-メシルアミノエチル)-アニリンも相当に重要視されている。さらに特定の場合ではあるがテトラアミノビリミジンも顔色物質として使用されている。カップリング物質としては、特に1-ナフタル、レゾルシン、4-クロルレゾルシン、m-アミノフェノール、5-アミノ-2-クレゾール、およびm-フ

4
エニレンジアミンの誘導体、たとえば2,4-ジアミノフェノールおよび2,4-ジアミノアニソールが使用されている。

顔色物質とカップリング物質を適当に組み合わせることによって多彩な色合いが幅広く表現される。

酸化染毛剤は使用直前に二つの成分を混合することによって得られる。そしてこの酸化染毛剤が染色すべき毛髪に塗布される。第一成分、すなわち染料担体は、染色を活性化する物質を含有している。これは溶液、ゲルあるいはエマルジョンの形態で提供される。酸化剤、たとえば過酸化水素を含有する第二成分は通常水性物あるいは粉末の形態で提供される。

実際の染色においては通常染料担体は溶液の形態で過酸化水素溶液と組み合わせて用いられる。溶液の形態で提供された染料担体と過酸化水素溶液は、たとえば塗布用容器内において混合され、統いてこれによって得られた薬剤がそのままこの容器を用いて毛髪に塗布される。

しかし溶液の形態で提供される染料担体をベースとする酸化染毛剤の場合多くの難点がある。たとえば皮膚に大きな影響を及ぼし、アンモニア含有量が多いために毛髪を非常に傷め、また、特に白髪の染色において、被覆力が不十分である。

更に、溶液の形態で提供される染料担体をベースとする酸化染毛剤の場合、適用技術の面で液状染毛剤が毛髪から流れ落ちやすいという難点がある。そこで溶液形態の染料担体の代わりにエマルジョン状あるいはゲル状の染料担体が採用されているが、この難点を解消するには至っていない。難点の解消以前に、エマルジョン状あるいはゲル状の染料担体は、粘度の違いから、実質的に液状の過酸化水素溶液と混合できないという事態が生じる。しかして本発明は、公知の毛髪の酸化染色用薬剤における上述のような難点を持たない毛髪の酸化染色用薬剤を提供すること、およびその薬剤の使用方法を提供することを課題として出発した。

そしてここに、 C_{11} ないし C_{12} の脂肪族アルコールを60ないし100重量パーセント含有する増粘剤混合物を含むエマルジョン状染料担体と、 C_{11} ないし C_{12} の脂肪族アルコールを7.5重量パーセント以上含有する増粘剤混合物と酸化剤を含むエマルジョン状組成物を、1:1.7ないし1:3の割合で混合することによって得られる毛髪の酸化染色用薬剤が、皮膚に傷害を与えないこと、アンモニアの含有量が少ないとから毛髪に対して負担が少ないと、更に、特に白髪の染色において、被覆力が優れていることが見い出された。

本発明に従って、染料担体中における脂肪族アルコールの量と酸化剤を含有する組成物中における脂肪族アルコールの量が共に規定されることによって、両成分の粘度が近い値となり、その結果両成分が混合しやすくなり、簡単に毛髪の酸化染色用薬剤を製造することができる。

(3)

特公平6-62396

6

更に、この新しい染料担体は、その粘度が適当であることによって、包装容器（通常はチューブ）内から簡単に取り出しができる。

本発明による毛髪の酸化染色用薬剤は、従来一般に用いられている酸化染毛剤に比べて、染料担体を通じて最終出来上り薬剤中に与えられる粘度調整物質の量は同じであるにもかかわらず、より高い粘度を示す。従って本発明による、この新しい薬剤は、例えば刷毛を用いて、問題なく毛髪に塗布することができる。

ここに本発明は、増粘剤混合物を6ないし30重量パーセント含有するエマルジョン状の成分（A）（染料担体）と、増粘剤混合物3ないし12重量パーセントと酸化剤を含有するエマルジョン状の成分（B）を、混合することによって得られる毛髪の酸化染色用薬剤において、

a) 成分（A）中に含有されている増粘剤混合物が、この増粘剤混合物の全重量に関して、C₁₁-ないしC₁₈-の脂肪族アルコールを6ないし100重量パーセント含有すること、

b) 成分（B）中に含有されている増粘剤混合物が、この増粘剤混合物の全重量に関して、C₁₁-ないしC₁₈-の脂肪族アルコールを75ないし100重量パーセント含有すること、および

c) 成分（A）と成分（B）の混合割合が1:1.7ないし1:3であることを特徴とする薬剤を対象とする。本発明による毛髪の酸化染色用薬剤において、成分（A）と成分（B）の重量割合は、望ましい実施形態においては、1:2である。

最終出来上りの毛髪の酸化染色用薬剤の粘度は500ないし200,000 mPa⁻¹ sである。

エマルジョン状の成分（A）および（B）中に含有される脂肪族アルコールはC₁₁-ないしC₁₈-の脂肪族アルコールであることが望ましい。成分（A）および（B）に含有され得る脂肪族アルコールとして、たとえばセチルアルコール、ステアリルアルコールあるいはこれらの混合物が挙げられる。

成分（A）中に含有されている増粘剤混合物は、エマルジョン状の化粧品において一般に使用されている増粘作用を有する物質、たとえばC₁₁-ないしC₁₈-の脂肪酸エステル、C₁₁-ないしC₁₈-の脂肪酸、エチレンオキサイド2ないし8モルでオキシエチル化された脂肪族アルコール、澱粉、ワセリンあるいは羊毛脂肪アルコールを、この増粘剤混合物の全重量に関して0ないし40重量パーセント、含有することができる。

必要に応じて成分（A）の増粘剤混合物中に含有される増粘剤の数は1ないし5、望ましくは1ないし3である。

成分（A）の増粘剤混合物は、特にC₁₁-ないしC₁₈-の脂肪酸とグリセリンあるいはグリコールとのエステル、例えばグリセリンモノジステアレート、例えばTeg

in（ゴールドシュミット社の製品）を含有することが望ましい。

成分（A）中に含有されている増粘剤混合物は、さらにアニオン系あるいは非イオン系乳化剤あるいはこれらの混合物を、この増粘剤混合物の全重量に関して0.2ないし2.5重量パーセント含有し得る。

成分（A）中に含有され得るアニオン系乳化剤として、たとえばC₁₁-ないしC₁₈-の脂肪族アルコールの硫酸エステル、C₁₁-ないしC₁₈-の脂肪族アルコールエーテル硫酸エステル、脂肪族アルコールオキシエタンのスルホン酸塩、10ないし30のエチレンオキサイド単位を有するラウリルオキシエチレート、あるいはオキシエチル化ヒマシ油を挙げることができる。成分（A）中に含有され得る非イオン系乳化剤として、特に8ないし30のエチレンオキサイド単位でオキシエチル化したC₁₁-ないしC₁₈-の脂肪族アルコール、例えばCremophor A 25（BASF社の製品）を挙げることができる。

成分（A）のpH値は4ないし1.3であるが、特に7.5ないし12.5が望ましい。pH値はアンモニアで調整することが望ましい。しかしpH値の調整に対してこの他有機アミン、たとえばモノエタノールアミン、あるいは無機アルカリ、たとえば水酸化ナトリウム溶液を用いることもできる。

成分（A）はカップリング物質を少なくとも一個と顔色物質を少なくとも一個含有しており、さらに必要に応じて補助的に自己カップリング可能な染料前駆体および毛髪に対して直接染着し得る直接染料を含有する。顔色物質およびカップリング物質は染毛剤に対してそのままの形態で、あるいは無機酸あるいは有機酸との、生理学上問題のない、塩の形態で、たとえば塩化物、硫酸塩、磷酸塩、酢酸塩、プロピオン酸塩、乳酸塩、クエン酸塩の形態で適用される。

カップリング物質は通常顔色物質に関してほぼ等モル量用いられる。しかし等モル量使用することが目的である場合においても、カップリング物質を多少過剰にあるいは過小に使用しても全く問題はない。さらに顔色物質およびカップリング物質は単一製品である必要はなく、顔色物質に公知の顔色物質の混合物を使用すると同時に、カップリング物質に公知のカップリング物質の混合物を使用することができる。

エマルジョン状染料担体、すなわち成分（A）は、公知のカップリング物質として、特に1-ナフトール、4-メトキシ-1-ナフトール、レゾルシン、4-クロルレゾルシン、4、6-ジクロルレゾルシン、2-メチルレゾルシン、3-アミノフェノール、3-アミノ-6-メチルフェノール、4-ヒドロキシ-1、2-メチレンジオキシベンゼン、4-アミノ-1、2-メチレンジオキシベンゼン、4-(β -ヒドロキシエチルアミノ)-1、2-メチルジオキシベンゼン、4-ヒドロキシインドール、2、3-ジアミノ-6-メキシビリジンおよび5-アミ

(4)

特公平6 62396

8

ノ-2-メチルフェノールを、単独で、あるいはこれらを混合して、含有する。この他に適当なカップリング物質としてさらに2、4-ジヒドロキシフェノールエーテル、たとえば2、4-ジヒドロキシアニソールおよび2、4-ジヒドロキシフェノキシエタノールを挙げることができる。

公知の顔色物質の内、本発明による染色担体の構成成分として、特に1、4-ジアミノベンゼン、2、5-ジアミノトルエン、2、5-ジアミノベンジルアルコール、3-メチル-4-アミノフェノール、2-(β -ヒドロキシエチル)-1、4-ジアミノベンゼンおよび4-アミノフェノールを使用することができる。毛髪の染色に対して従来一般に用いられている酸化染料の内、成分(A)中に適用することができるものとして、特にB. Sagarn の著書「化粧品の科学および工業技術」Interscience Publishers 社発行、New York (1957)、503および504頁、並びにH. Janistyn の著書「化粧品および香料ハンドブック」(1973) 338および339頁に記載のものを挙げることができる。

成分(A)中に含有される顔色物質-カップリング物質複合物の量は合計0.01ないし1.2重量パーセント、望ましくは0.2ないし4重量パーセントである。

特殊な色合いを得るために、更に、一般に用いられている直接染料、たとえばペーシック・バイオレット14(C. I. 42 510)、およびペーシック・バイオレット1(C. I. 42 520)のようなトリフェニルメタン染料、2-アミノ-4、6-ジニトロフェノール、2-ニトロ-4-(β -ヒドロキシエチルアミノ)-アニリン、2-N- β -ジヒドロキシプロピルアミノ-6-(N-メチル、N-ヒドロキシエチル)-アミノ-ニトロベンゼンおよび2-アミノ-4-ニトロフェノールのような芳香族ニトロ染料、アシッド・ブラウン4(C. I. 14 805)およびアシッド・ブルー135(C. I. 13 385)のようなアゾ染料、ディスパース・パオレット4(C. I. 61 105)、ディスパース・ブルー1(C. I. 64 500)、ディスパース・レッド15(C. I. 60 710)、ディスパース・バイオレット1(C. I. 61 100)、1、4、5、8-テトラアミノアンスラキノンおよび1、4-ジアミノアンスラキノンのようなアンスラキノン染料を成分(A)に添加することもできる。成分(A)はこの他にも、たとえば2-アミノ-5-メチルフェノール、2-アミノ-6-メチルフェノール、2-アミノ-5-エトキシフェノールあるいは2-プロピルアミノ-5-アミノピリジンのような自己カップリング可能な染料前躯体を含有することができる。

直接染料および自己カップリング可能な染料前躯体の成分(A)中における含有量は、合計量として、0.01ないし1重量パーセント、望ましくは0.2ないし4重量パーセントである。

成分(A)中における染料の総量、すなわち顔色物質-カップリング物質複合物、自己カップリング可能な染

料および直接染料を全て合わせた量は、0.1ないし1.4重量パーセント、望ましくは0.2ないし8重量パーセントである。

これらの他に成分(A)にはアスコルビン酸、レゾルシンあるいは亜硫酸ナトリウムのような酸化防止剤、およびエチレンジアミンテトラセテートや酢酸ニトリルのような重金属に対する錯化合物形成剤が、0.5重量パーセント以下の量において、含有され得る。本発明による染料担体中には香油が、1重量パーセント以下の量において、含有される。さらに成分(A)には必要に応じて潤滑剤、乳化剤、保護剤、カチオン系樹脂、そのほか一般に用いられている添加剤が含有される。

エマルジョン状の酸化剤含有成分(B)に含有される脂肪族アルコールはC₁-ないしC₁₁-の脂肪族アルコールであることが望ましい。成分(B)中に適用することのできるこのよう脂肪族アルコールとして、セチルアルコール、ステアリルアルコールあるいはこれらの混合物を挙げることができる。

成分(B)に含有されている増粘剤混合物は、C₁-ないしC₁₁-の脂肪族アルコールの他に、化粧用薬剤において一般に用いられている増粘剤、たとえば2ないし6個のエチレンオキサイド単位でオキシエチル化したC₁-ないしC₁₁-の脂肪族アルコールを補助的に含有し得る。

成分(B)に含有されている増粘剤混合物は、非イオン系あるいはアニオン系乳化剤あるいはこれらの混合物を、この増粘剤混合物の全重量に関して0.2ないし2.5重量パーセント含有し得る。成分(B)中に含有され得る乳化剤として、たとえばC₁-ないしC₁₁-の脂肪族アルコールの硫酸エステルあるいはスルホン酸エステル、C₁-ないしC₁₁-の脂肪族アルコールエーテル硫酸エステル、エチレンオキサイド8ないし30モルでエトキシ化したC₁-ないしC₁₁-の脂肪族アルコール、コレステリンあるいは羊毛脂肪アルコールを挙げることができる。

成分(B)は酸化剤を1ないし1.8重量パーセント、望ましくは4ないし1.4重量パーセント含有する。毛髪の染色において発色作用を有する酸化剤として、主に過酸化水素、並びに、この尿素、メラミン及びほう酸ナトリウムに対する付加化合物が用いられる。特に過酸化水素を成分(B)に対して1ないし1.8重量パーセント使用することが望ましい。

成分(A)と成分(B)を混合することによって得られる毛髪の酸化染色用薬剤は酸性、中性あるいはアルカリ性に調整することができる。本発明による毛髪の酸化染色用薬剤のpH値は7.5ないし12.0、望ましくは9.5ないし10.2である。

本出願において表示されている重量パーセントの数値は、特に指示がない限り、それぞれ成分(A)の全重量に關する、あるいは成分(B)の全重量に關する数値で

(5)

特公平6-62396

10

ある。

上記の酸化染毛剤を使用するに当たっては、本発明の方
 法に従って、使用直前にエマルジョン状染料担体（成分
 A）と酸化剤含有エマルジョン（成分B）を1:1.7
 ないし1:3、望ましくは1:2の重量割合で混合し、
 これによって得られる酸化染毛剤を、染毛に充分な量、
 通常9.0ないし16.0g毛髪に塗布する。混合物を1.5

ないし50℃の温度において約10ないし45分間、留
 ましくは30分間毛髪に作用させた後、毛髪を水で洗浄
 し、乾燥させる。必要に応じて乾燥前にシャンプ、リン
 スを行う。

次に実施例に基づいて本発明の対象をさらに詳しく説明
 する。

実施例1：酸化染毛剤

エマルジョン状の染料担体（成分A）

セチルステアリルアルコール	8.00 g
ナトリウムラウリルアルコールジグリコール	
エーテルスルフェートの28%水溶液	1.18 g
無水亜硫酸ナトリウム	0.50 g
2,5-ジアミノトルエンスルフェート	1.00 g
レゾルシン	0.50 g
2-アミノフェノール	0.08 g
25%アンモニア水溶液	6.19 g
水	81.89 g
	100.00 g

過酸化水素エマルジョン（成分B）

セチルステアリルアルコール	6.00 g
コレステリン	0.15 g
ナトリウムラウリルアルコールジグリコール	
エーテルスルフェートの28%水溶液	2.40 g
50%過酸化水素水溶液	9.00 g
水	82.45 g
	100.00 g

実施例1の成分（B）のpH値は薄い磷酸溶液で2.5
 に調整されている。

使用直前に上記のエマルジョン状染料担体40gを上記
 の過酸化水素エマルジョン80gと混合し（混合割合は
 1:2である）、これによって得られる酸化染毛剤12
 0gを白髪混じりの人毛に塗布し、室温において20分
 間作用させる。その後染毛剤を水で洗い流し、毛髪を乾
 燥させる。この処理によって毛髪は毛根から毛先まで均
 一に濃いブロンド色に染色される。本発明による毛髪の
 酸化染色用薬剤は1700mPa·sの粘度を有し、刷毛
 を用いて塗布する際に滴が垂れる心配がなく、良好な被
 覆状態を示す。

本出願において表示の粘度数値はすべてハックの粘度計
 40を用いて20℃において測定した値である（ロッドII、
 重量5g）。

実施例2：酸化染毛剤
 エマルジョン形態の染料担体（成分A）

セチルステアリルアルコール	10.000g
羊毛脂肪アルコール	1.000g
ナトリウムラウリルアルコールジグリコール	2.000g
エーテルスルフェートの28%水溶液	
無水亜硫酸ナトリウム	0.500g
2,5-ジアミノトルエンスルフェート	1.350g

(6)

特公平6-62396

レゾルシン	0.720g
■アミノフェノール	0.056g
■フェニレンジアミン	0.028g
25%アンモニア水溶液	7.282g
水	77.084g
	<u>100.000g</u>
過酸化水素エマルジョン(成分B)	
セチルステアリルアルコール	6.00g
コレステリン	0.15g
ナトリウムラウリルアルコールジグリコール エーテルスルフェートの28%水溶液	2.40g
50%過酸化水素小溶液	9.00g
水	82.45g
	<u>100.00g</u>

実施例 2 の成分 (B) の pH 値は薄い磷酸溶液を用いて 2.5 に調整されている。

使用直前に上記のエマルジョン状染料担体 40g と上記の過酸化水素エマルジョン 80g を混合し (混合割合は 1:2 である)、これによって得られる酸化染毛剤 (これは 2100M Pa·s の粘度を有する) 120g を完全に白くなったり毛に塗布し、室温において 30 分間作用させる。その後染毛剤を水で洗い流し、次いで毛髪をシャンプし、続いてリーンスし、乾燥させる。この処理によって毛髪は毛根から毛先まで均一にくすんだブロンド色に染色される。

実施例 3 : 明色染色用酸化染毛剤
エマルジョン状染料担体(成分A)

セチルステアリルアルコール	14.000g
グリセリルステアレート	3.000g
ナトリウムラウリルアルコールジグリコール エーテルスルフェートの28%水溶液	2.300g
無水亜硫酸ナトリウム	0.500g
■フェニレンジアミン	0.012g
レゾルシン	0.012g
25%アンモニア水溶液	15.000g
水	65.176g
	<u>100.000g</u>
過酸化水素エマルジョン(成分B)	
セチルステアリルアルコール	4.00g
コレステリン	0.10g
ナトリウムラウリルアルコールジグリコール エーテルスルフェートの28%水溶液	1.60g
50%過酸化水素水溶液	24.00g
水	70.40g
	<u>100.00g</u>

成分 (B) の pH 値は薄い磷酸溶液で約 2.5 に調整されている。

使用直前に上記のエマルジョン状染料担体 40g と上記の過酸化水素エマルジョン 80g を混合し (混合割合は 1:2 である)、これによって得られる酸化染毛剤 (こ

れは 2300M Pa·s の粘度を有する) 120g を白くなっていない、褐色の人毛に塗布し、室温において 30 分間作用させる。その後染毛剤を水で洗い流し、毛髪を乾燥させる。この処理によって毛髪は毛根から毛先まで均一にブロンド色に染色される。本発明による毛髪の酸化染色用薬剤は皮膚を全く傷めない。

比較実施例 A : 粘度および被覆力

本発明による酸化染毛剤と従来公知の酸化染毛剤 (セチルステアリルアルコールの含有量は同じである) の粘度および被覆力を比較するために、頭部を二つの部分に分けて実験を行った。三人の被験者の頭部の左半分に従来の酸化染毛剤を塗布した。すなわち下記組成の、従来公知のエマルジョン状染料担体 (C) 20g を下記組成の、従来公知の液状過酸化水素組成物 (D) 40g と混合することによって製造される酸化染毛剤を、上記頭部の、白髪混じりの毛髪に塗布した。

従来公知のエマルジョン状染料担体 (C)

セチルステアリルアルコール	20.000g
コレステリン	0.300g
ナトリウムラウリルアルコールジグリコール エーテルスルフェートの28%水溶液	6.640g
無水亜硫酸ナトリウム	0.500g
2,5-ジアミノトルエンスルフェート	1.000g
レゾルシン	0.500g
■アミノフェノール	0.080g
25%アンモニア水溶液	6.188g
水	<u>64.792g</u>
	<u>100.000g</u>

従来公知の液状過酸化水素組成物 (D)

50%過酸化水素水溶液	9.000g
水	91.000g
	<u>100.000g</u>

g

成分 (D) の pH 値は薄い磷酸溶液で約 2.5 に調整されている。

他方実施例 1 に記載の、本発明による酸化染毛剤 60g を、上記被験者の右半分の頭髪に塗布した。

上記の二つの成分 (C) および (D) を混合することによって得られる酸化染毛剤はさらさらの液状であるのに

40 対して、本発明による酸化染毛剤は、脂肪族アルコール含有量が同じであるにもかかわらず、高い粘性を示し、まったく滴落ちすることなく、刷毛を用いて毛髪に難なく塗布することができた。

両染毛剤共に 30 分間作用させた後、水で洗い流した。次いで毛髪をシャンプ、リーンスし、乾燥させた。

本発明による酸化染毛剤で処理した右半分の頭髪は均一に濃いブロンド色に染色された。染色前に灰色であった毛髪は本発明による酸化染毛剤によって均一に被覆されるのに対して、従来公知の酸化染毛剤によって処理した

50 左半分の頭髪は被覆が不充分であった。

(7)

特公平6-62396

13

比較実施例 13: 灰色の毛髪に対する被覆力

灰色の毛髪に対する本発明による酸化染毛剤の被覆力と従来公知の酸化染毛剤の被覆力を比較するために、頭部を二つの部分に分けて実験を行った。

まず下記組成の、従来一般に用いられているエマルジョン状染料担体 (C) 20 g を下記組成の、従来一般に用いられている過酸化水素溶液 (D) 40 g と混合することによって、従来一般に用いられている酸化染毛剤を製造した。

従来一般に用いられている染料担体 (C)

セチルステアリルアルコール	22.000g
羊毛脂肪アルコール	1.000g
コレステリン	0.300g
ナトリウムラウリルアルコールジグリコールエーテルスルフェートの28%水溶液	6.800g
無水亜硫酸ナトリウム	0.500g
2,5-ジアミノトルエンスルフェート	1.350g
レゾルシン	0.720g
■-アミノフェノール	0.056g
■-フェニレンジアミン	0.028g
25%アンモニア水溶液	7.282g
水	59.984g
	<u>100.000g</u>

従来一般に用いられている過酸化水素組成物 (D)

50%過酸化水素水溶液	9.00 g
水	<u>91.00 g</u>
	<u>100.00 g</u>

上記の成分 (D) の pH 値は薄い磷酸溶液によって約 2.5 に調整されている。

上記の従来一般に用いられている酸化染毛剤を 60 g づつ三人の被験者の灰色の左半分の頭髪にそれぞれ塗布し

セチルステアリルアルコール	20.000 g
コレステリン	0.200 g
グリセリルステアレート	3.000 g
ナトリウムラウリルアルコールジグリコールエーテルスルフェートの28%水溶液	5.500 g
無水亜硫酸ナトリウム	0.500 g
■-フェニレンジアミン	0.012 g
レゾルシン	0.012 g
25%アンモニア水溶液	15.000 g
水	<u>53.776 g</u>
	<u>100.000 g</u>

従来一般に用いられている過酸化水素溶液 (D)

50%過酸化水素溶液

24.00 g

14

た。
 比較のために実施例 2 に記載の本発明による酸化染毛剤を 60 g づつ上記被験者の右半分の頭髪にそれぞれ塗布した。

両染毛剤を共に 30 分間作用させた後、水で洗い流した。次いで毛髪をシャンプ、 rinsed, 乾燥させた。両頭部は共にくすんだブロンド色に染色された。もとの白い頭髪に対して、本発明による酸化染毛剤の方が明らかに良好な被覆力を示した。

10 比較実施例 C: 明色化および皮膚に対する影響の比較さらに、皮膚に対する影響および明色化作用に関して、実施例 3 に記載の本発明による酸化染毛剤と従来一般に用いられている酸化染毛剤について、比較実験を行った。

まず下記組成の、従来一般に用いられているエマルジョン状染料担体 (C) 20 g を下記組成の、従来一般に用いられている過酸化水素溶液 (D) 40 g と混合することによって、従来一般に用いられている酸化染毛剤を製造した。

20 従来一般に用いられている染料担体 (C)

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.